



理念

1. 信頼される病院
2. 心温まる病院
3. 楽しく働ける病院

基本方針

- 地域における医療福祉の向上につとめ、地域住民のいのちと健康を守ります。
- 地域の中核病院として、地域の医療機関と連携・協調を図ります。
- 二次医療を中心に担当します。
- 医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指します。
- 超高齢社会における治す医療と支える医療の両立を目指します。

● 伊藤 慶昭

Yoshiaki Itou



この2年間で、指導医の先生方を始めとして、多くの方々にお世話になりました。ご迷惑をかけることも多々ありましたが、その度に温かくご指導いただいたことに心より感謝申し上げます。来年度からは岡山大学病院で麻酔科の道に進むこととなりました。戻ってくる際には少しでも皆様のお役に立てるよう、研鑽を積んでいきたいと存じます。

初期臨床研修医

● 中島 由希子

Yukiko Nakashima



この2年間、大変充実した研修をさせていただいたと思います。これもひとえにご指導いただいた先生方、スタッフの皆さまのおかげと深く感謝しております。そして患者さまとの関わりの中で、医師として大切なことをたくさん学ばせていただきました。患者さまの視点に立ち、安心感を持っていただけるような医師を目指し、今後とも研鑽を積んでいきたいと思います。

2年間で振り返って

● 武森 涉

Wataru Takemori



「研修医時代に楽はしない方がいい」と大学の恩師にアドバイスをいただき、その言葉通り、とにかく忙しい日々を過ごしてまいりました。たくさん叱られ、たくさん学んだ2年間でした。とても素直で従順とは言えない私を、温かい目で見守り育ててくださった多くの方々感謝しております。

● 権代 竜郎

Tatsurou Gondai



岡山大学病院で初期臨床研修を7ヶ月間行い、11月より鳥取市立病院で新たな研修プログラムを開始して、研修医生活のほとんどをこちらで過ごさせていただきました。素晴らしい先生方が丁寧に指導してくださり、充実した2年間でした。将来は鳥取の医療を支える医師になれるよう、これからも頑張ります。

12月より当院で研修された井本先生にもコメントをいただきました。



● 井本 良二
Ryouji Imoto

岡山大学病院初期研修医2年目の井本良二と申します。2017年12月より4か月間、たすき掛けの形で内科（消化器1か月、循環器2か月）、外科2か月を研修させていただきました。大学病院とは異なり、多くのcommon diseaseを各科ならびに救急外来等で学ばせていただきました。将来の診療の糧にしていきたいと考えております。

鳥取総合診療セミナー

ウィンターセミナーを行いました

平成30年2月17日に、鳥取市立病院にて、鳥取総合診療セミナー「ウィンターセミナー」を開催しました。講師として千葉県国際医療福祉大学医学部 総合診療医学 大平善之 主任教授をお招きして、『総合診療におけるしびれのみかた』をテーマに講演していただきました。

当日は、初期臨床研修医を含む医師や看護師、理学療法士、診療放射線技師などをはじめとする医療従事者25名が参加し、講義を真剣に聴講していました。講義は「しびれ」というやや難解なテーマではありましたが、わかりやすい言葉と事例を示しながらの丁寧な講義に、参加者は集中力を切らすことなく聴講していました。

アンケートでは、「スライドの図が工夫されていてとても分かりやすかった」「明日からの診療に生かせる」「興味あるテーマだったので理解が深まった」などの意見がありました。



講師の大平 善之 主任教授



熱心にメモをとる参加者



講師からの問題に答える
研修医（中央下）

第47回 市民医療講演会

講演

早期胃癌の内視鏡治療

鳥取市立病院 消化器センター 相見 正史 まさひと

大腸癌の最新治療

鳥取市立病院 外科 加藤 大 ひろし

開催日時

平成30年 3月 24日(土) 10:00~11:30

会場

さざんか会館 5階大会議室

駐車場はさざんか会館駐車場、鳥取市役所駅南庁舎駐車場をご利用ください。

手話を使ってみよう!

春を楽しみに待つ

手のひらを上にして、暖かい空気が下から上がってくるイメージで、自分に仰ぐ動作を数回繰り返します。



春
(暖かい)

楽しい
(嬉しい)



手を開いて胸の前で上下に交互に動かします。

右手の指を付け根から曲げ、指の背をあごの下にあてます。



待つ



倉繁拓志先生の修業記 その4

日本は厳しい寒波に襲われているようで、福井の国道で車が立ち往生したニュースを聞くと、数年前の鳥取を思い出し、ついつい鳥取は大丈夫だろうか心配になります。その渋滞も解消された今は平昌オリンピックで盛り上がっているのではないのでしょうか。

こちらも日本と同様に厳しい寒さが続いており、一日を通して氷点下という日も決して珍しくありません。雪も断続的に降りひどい時には嵐になるために、ラボ全体に午前中で帰宅命令が出た日もありました。



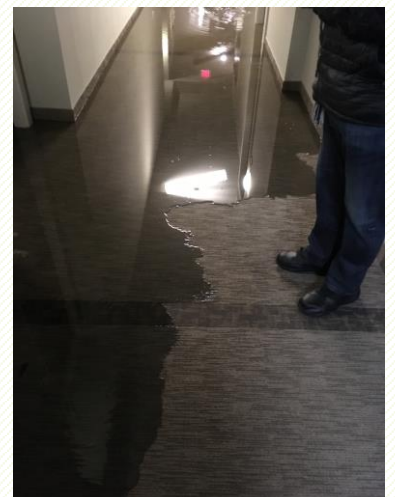
そんなこんなで渡米してから半年が経過しました。研究についてはマウスの心移植を中心に行っており、他の研究員の手伝いの傍ら、自身のテーマについては先日、移植後の予後因子（マーカー）について検索してみようかと言い渡されました。文献検索後、様々な遺伝子をリストに挙げて血中、組織での発現率を検討する作業を始めたばかりです。

今月は寒さのために起きた事故(?) についてご報告したいと思います。前述のごとく、昨年からアメリカ東海岸全体が厳しい寒波にみまわれ、南部のフロリダ州では20数年ぶりに雪が降ったとのニュースもありました。クリーブランドは寒さに慣れているためにそれほど大きな事故はなかったといたいたのですが、残念ながらわがアパートには甚大な被害が出ました。1月初旬から水道管が凍結のために破裂し、まずはアパート内のスポーツジムの器具一式

が浸水し、使用不可能となりました。それ以降も、次々と他の部位の水道管が破裂し、破裂した近辺の部屋は水浸しになり使用不可能となった部屋も出現し、その住民は強制的に部屋を変更せざるを得なかったようです。我が家は玄関から僅かな水が入ってはきたものの、幸いタオル2枚が濡れた程度の被害です。そのため、部屋の移動は必要ありませんでした。また、水道管と火災用のスプリンクラーが連動しているため、破裂するたびに火災報知機が誤作動し、1月には5回以上、部屋の外に避難する必要がありました。その都度、消防車が駆けつけ警報機が鳴った原因を検索し、問題ないことが判明すると、やっと家に戻ることができるといった状態が続きました。アメリカの火災報知機は耳をつんざくような仰々しい音を発するため、我が家の2歳の娘はサイレンが鳴り響いている間はずっと怖がって母親から離れようとしませんでした。また、警報機は昼間だけではなく深夜にも鳴るので、我が家だけではなく、アパート全体の住民が憔悴していました。幸い、2月に入ってからは警報機も鳴らなくなり、落ち着きを取り戻しつつあります。

アメリカらしいのは、早くも住民の代表が立ち上がりオーナーと保証などの交渉を始めている点です。先週末には、住民代表と弁護士、仲介人が話し合いをもったようです。

異国の地に来て、色々と貴重な経験をさせて頂いております。まだまだ、厳しい寒さが続くようですので、お体をご自愛下さい。



凍結によって水道管が破裂し
廊下が水びたし…